



剣ヶ峰

2003
3/21 ~ 23



高天原
剣ヶ峰
蚤玉岳
朝日岳

御 嶽 山

乗 鞍 岳

W
剣ヶ峰を滑降



2003.3/21 ~ 23
御嶽山、乗鞍岳山スキー

天候：3日間とも晴れ

メンバー：石野美輝郎・横小路利郎・大塚賢一・大本誠一・田代恵子

テーマ：2峰の剣ヶ峰からの大滑降、アイスバーン滑降訓練（黒部五郎カールを想定）

21日 御嶽山 晴れ

姫路4:30 出発で途中加古川、大津に寄り御嶽スキー場に着11:30。天気は雲一つない快晴、気温は7℃、スキー客で駐車場は満車であるが、無料なので助かる。

ここまでの道のりは姫路からは遠いので好天に恵まれると本当にうれしいものである。

12:20 早速にゴンドラ片道切符を購入、終点の2130mにセットする。

13:00 2335m テント設営

昨年同様にシラビソの樹林限界手前 2335m にテント設営し、サブザックで山頂アタックへとシールで向かう。白いベールをかぶった乗

鞍・穂高連峰・中央アルプスとすべてが見渡せる。他の山スキーヤー3人と合流したが、クトーを持ってなかったりアイゼンを装備していなかったりで誰も付いて来なかった。

石室山荘 2800m を過ぎて覚明堂 2900m にさしかかるところには雪はいつも通りのアイスバーンになりクトーがほどよく効きピックストックでサポートしながら慎重に乗り越えてカールを登り終えると山頂への稜線にたどり着く。登山者が2パーティー6人が休憩していた。1パーティーは下山、もう1パーティーは二ノ池小屋付近にテントを張りに下りていった。

15:45 3067m 剣ヶ峰山頂着 - 5

快晴ではあるが冷たい風に手がかじかむ。恵ちゃんを待つこと1時



雪に閉ざされた覚明堂



ロケーション抜群のテン場



山頂からは360度の大パノラマ



中央ALをバックに山頂へ

間、しかし彼女はアイスパーンを滑ろうとスキーをちゃんと引っ張って登って来ていた。横さんは用心して石室山荘直下のコルにスキーデポで無難にピッケル・アイゼンで登頂である。

17:10 テン場着

5時を過ぎれば山頂からは石室山荘を過ぎた辺りでもアイスパーンになり、エッジがガリガリと金属音を発しながらもターンを切るが、雪面をうまくとらえられずに2度弾かれたがピックストックを堅い雪面にぶち込むと10mほど流されながらも確実にスピードが緩まって止まってくれるのは強い味方である。やはりこれも滑落停止訓練のたまものだろう、流されながらも余裕があった。

山頂からは25分ほどの滑降であったが非常にスリルがあり急斜面のアイスパーン克服に自信がつく。

22日 移動 晴れ

5:35 起床 - 5度

昨夜は言うまでもなく満点の星空でダイヤを散りばめたようだった。

7:20 再び石室山荘まで・・・

今日は移動日であるが時間もあるので再び石室山荘辺りまで登り詰め

る。朝一番は昨日にも増してカリカリに雪面が凍てついて急斜面のアイスにクトーがよく刺さる。しかしフル装備を背負って風がもう少し強ければ無理をしないでピッケル・アイゼンに切り替えるのが無難だろう・・・と、そんなことを思っている矢先、100m先に行く大本がいきなり滑落、有に40mくらいは滑り落ちただろう。アセって両方のピックを刺そうとするが力が分散されて堅い雪面に弾かれてしまう、冷静に考え直したのか今度は片手のピックにもう片方の手を当て上半身を乗せるようにして刺すとスピードが緩み見事に静止！。「停止訓練を思い出して良かった」と言っていた。全ては訓練を身体に覚え込ませる事である。

石室山荘の屋根横から一気に急斜面めがけてドロップイン・・・アツという間にテントサイトへ滑り込む。

テントサイト付近で一番のゴンドラで上がっていた山スキーヤーやボーダーの10数名とすれ違う。

テントを撤収し、温泉に浸かり乗鞍高原休暇村の駐車場へ移動。

16:10 乗鞍高原休暇村の駐車場着

駐車場でモンベル7人用のビッグテントを設営しコールマンランタンで暖まりのびのびとくつろぐ、しかし乗鞍は御嶽より冷えているようで



ダケカンバ帯を滑降



山頂小屋と鳥居



石室山荘を後に大斜面を滑降

テント内は朝方はバリバリに凍っていた。

23日 乗鞍岳 晴れ

5:00 起床 - 8度

よく冷え込んでいるが今日も雲一つ無い快晴である。

8:50 1990m シール登行開始

朝一番のリフト8時30分に乗り乗鞍岳の麓に到着する。このコースはさすがにメジャーなだけあってすでにボーダーや山スキーヤーがスノーシュー、やシールの準備に取りかかっている。先に行くボーダーや山スキーヤーを難なく抜きすぐにトップに立つが、山中のテント組がいて行けども行けども前には人がいる。林道のような整備？された雪道をシールでサクサク登って行くと30度位の斜面にシール組数名があえいでいる、なんで？、と思いながら側をサクサク登らせてもらった。その斜面を過ぎると広大な雪面が広がっていた。その雪面は強風が作り出す芸術美で全面が見事なシュカブラ覆われている。晴れてはいるがさすがに寒い。この辺りがガスで覆われては困難極まるどころであろう。

12:10 3026m 剣ヶ峰山頂着

ほとんどの人は宇宙観測所下の肩ノ小屋めがけて登っているが、我々

は目の前の最短コースの朝日岳と蚕玉岳のコルをめがけて直登する。すごいシュカブラで思うようにクトーが刺さってくれない、よけいに疲れるので私と恵ちゃんは早々にアイゼンに履き替えスキー引っ張りで急斜面を直登で登り切る。いつもそうなのだが我々のようにスキーを引っ張って登っている者は見たこと無いに等しい、みな担ぎである。断然このほうが軽いのになぜだろう？。

山頂からは言うまでもなく360度大パノラマである。切り立った穂高連峰から昨日滑降した御嶽山、遠くには白山が雲上に浮遊している。

山頂からボーダー2人組みが滑り始めたがエッジが効かないのかギャラリーが見守る中で2人とも大転倒してまくれ落ちていった。ちょっとヤバイかな？、と思い一つ下りて蚕玉岳山頂からドロップイン・・・、昨日の御嶽で鍛えてあるので快適に急斜面にエッジを効かせながらターンの連続、途中新雪にブレーキをかけられたが難なくクリア、先程のボーダー2人と合流したが無事でなによりだった。ほとんどの山スキーヤーは肩ノ小屋に板をデポして山頂まで登って来ていてギャラリーになっていた、なんで??。

14:10 駐車場着

オフピステを快適に飛ばしスキー場に合流してドンピシャに駐車場ま



乗鞍岳をバックに



シュカブラの急登



蚕玉岳より大滑降の私

で降りてきた。「最高～！」の雄叫びである。念願なかった2峰の剣ヶ峰滑降に乾杯～。

乗鞍高原温泉で疲れを癒し帰路に着くが、ここからが地獄の運転で山行よりも疲れる道中であった。



広大な雪原



登行ラインと滑降ライン



御嶽 & 乗鞍に乾杯！



カッ飛ばす石野氏



大カールに満足の恵ちゃん



乗鞍岳山頂



北ALがすぐそこに・・・